
ベルサイユのばら・フランス革命後

makatto

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ベルサイユのばら・フランス革命後

【Nコード】

N4540M

【作者名】

m a k a t t o

【あらすじ】

フランスにオーストラリアの女帝・マリア・テレジアの末娘のマリー・アントワネットをルイ16世の嫁として嫁がせ、アントワネットがフランス王妃になると国民からの税金をアントワネットはそんな事も深く考えずに浪費してしまった事でフランス革命を起こり、王国制度から共和国制度に変えようとした。そんな中、オスカルとアンドレは結ばれるが、2人は革命中に反乱しているパリ市民によって殺された。国王共に王妃のアントワネットは亡命したが失敗し、

フランス国民は自分の国を捨てようとした国王までも国民の怒りにかかってしまい、

王妃共に処刑された。

フランス革命が終結された後の話をセリフなしで書いてみました。

ロザリーとベルナール夫妻についても少し書きました。

（前書き）

セリフなしで小説でないかもしれませんが…。

フランスの新・国王のルイ16世の妻で王妃のオーストラリアから嫁がれてきたマリー・アントワネット。

国王は国民を深く愛し、国民に暮らしやすい国にしようとしていたが、

王妃のマリー・アントワネットはヨーロッパで一番美しい国・フランスでたくさんの豪華なドレスやアクセサリー、夜な夜なパリでの仮面舞踏会などに浪費していた。

アンドレは国民の事を思ってアントワネットは浪費し過ぎたと思っていたが、

オスカルはアントワネットが密かに恋愛中のスウェーデンの伯爵、ハンス・アクセル・フォン・フェルゼンがアントワネットの気持ちの高ぶりを抑えるために

しばらくフランスを離れてアントワネットがそういう事で

夜な夜な仮面舞踏会などに遊びほうける事でフェルゼンを忘れる事が出来ようとしていると思ひ、

オスカルはパリで市民達がアントワネットの浪費のせいで飢えて怒り爆発寸前になまでもなってる事を知らずに

アントワネットの遊びほうける事を見守っていた。

そして、とうとうフランス国民の市民の怒りが爆発しフランス革命の行動を起こし始めた。

そして、最後にオスカルはアンドレと結ばれ、貴族という身分を捨て、

アンドレ共に革命活動で亡くなった。

王室でも変装して亡命したが失敗し、フランスに戻された。

国民も国王は自分の国を捨てようとした事でさらにパリ市民、ヨーロッパ全体にフランスの王室制度から共和制度にとフランス革命が起こしたパリ市民は

ベルサイユまでやってきて王妃・マリー・アントワネットをバルコニーに出せと。

アントワネットはパリ市民に負けずとバルコニーに出て初めて市民にお辞儀した。

パリ市民はそれを見て、一瞬はアントワネットは生まれ持ったオーストラリアの皇女だと思い知った。

しかし、それだけでパリ市民はアントワネットを許せなかった。国王共に王妃のアントワネットをパリ市民の前で処刑された。

こうしてフランスはフランス共和国になった。そんなフランス革命中にロザリーはパリの新聞記者のベルナールと結婚をした。

それでも、ロザリーはオスカルをもまだ想っていたからオスカルの死に様を現場で見て絶望しかけた。

だけど、ロザリーにはベルナールが支えてくれている。

そして、フランス共和国になって3年たった頃にはフランスは自由、身分制度もなくなり、物価や食べ物なども安くなり、仕事もすぐに見つかるようになるまでに

幸せな暮らしになってきた。

ロザリーとベルナールには2歳になる息子がいる。息子の名前はもちろん、オスカル。

オスカルのように優しく人を思いやれる、そして強い意思を持った大人になってほしくオスカルと名つけた。

ロザリーは子育てで専業主婦であり、ベルナールはフランス革命が起こる前のように、いつも、新聞記者として家族を支えている。

フランス共和国になって本当にフランス国民が徐々に暮らしやすくなった。

貴族だった国民も働き、税金も払っている。

貴族はベルサイユで過ごしていた時よりも1フランス国民の平民になってフランスで過ごす方が生き生きしている。

ベルサイユにいた、貴族達はオスカルが一生懸命に国民の事をきちんと知っておくべきだと

いう発言などを思い出しながら今は貴族だった頃に平民はただのグズとして思っていた自分達は恥ずかしくなる。

あの時、アントワネットの浪費を止めておけば、あの時、貴族同士でアントワネットにペコペコせず、自分達も国民の事をよく思うように言い聞かせておけば…。

そついった貴族だった平民はまだ自分がベルサイユでどんな風に過ごしてきた事がどれほど恥ずかしい事だとやっと気づいて、これからは平民として、過ごしていく。

そつ、正しい事をはっきり言える、はっきり行動に出る事が出来る

パリ市民になりたい。

今は、パリ市民との和解していてパリ市民同士、男はみんなで酒場で呑み明かし、楽しく騒ぐのが楽しみにしている。

女は仲良く、色んな話題を出しておしゃべりを楽しんでる。

たまにベルサイユの話を聞かせてほしく、みんな明るくベルサイユの話をする。

そうやってフランスは幸せな国になったんだろう。

(後書き)

つまらなかったらすみません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4540m/>

ベルサイユのばら・フランス革命後

2010年10月15日06時08分発行